

# コメ新市場開拓等促進事業（共通）の取組メニュー及び実績確認方法

※ ①～⑩から3つ以上の取組を実施すること

※ 多収品種加算を受ける場合には「⑬多収品種等の導入」を含めて合計4つの取組を選択すること

※ 本事業の要望調査の開始日（令和8年1月7日）以降の令和8年産（基幹作）の取組が対象

番号	取組メニュー	取組内容・取組基準	実績確認方法	写真撮影のポイント等
①	直播栽培	湛水直播栽培や乾田直播栽培 ・育苗作業を省略し、直播に対応した播種機等を用いて種もみを直接ほ場に播種する栽培を行うこと	・営農計画書及び作業日記により確認	
②	疎植栽培	地域の慣行栽培における移植密度に比べ密度を低くし、移植に要する苗箱数を減らす取組 ・疎植に対応した田植機を使用し、苗の移植密度を地域の慣行レベルの80%以下又は50株/坪(15.2株/m <sup>2</sup> )以下とすること	・作業日記に実施面積及び苗の移植密度を記載すること ※基準…50株/坪(15.2株/m <sup>2</sup> )以下	
③	高密度播種育苗栽培	地域の慣行栽培における育苗密度に比べ密度を高くし、移植に要する苗箱数を減らす取組 ・慣行栽培(乾籾100～150g(催芽籾125～187g))より育苗密度が高くなるよう、乾籾250～300g(催芽籾312～375g)を播種・育苗し、高密度播種育苗に対応した田植機を用いて移植すること	・作業日記により確認 ・苗の育苗密度を記載すること ※基準…乾籾250～300g(催芽籾312～375g)	
④	プール育苗	プールを設置し、プール内に苗箱を置き湛水状態で行う育苗	・実績報告書(個票)の提出 ・作業委託の場合は、支払伝票の写しを提出	(個人実施の場合のみ) <input type="checkbox"/> 育苗プールの全景写真
⑤	温湯種子消毒	農薬を使用せず、約60℃の温湯に種籾を浸漬し、種子消毒を行う取組	・個人実施の場合は、作業中もしくはは機器の写真を提出	(個人実施の場合のみ) <input type="checkbox"/> 種子消毒の作業中写真
⑥	効率的な移植栽培	無代掻き移植栽培※1、乳苗移植栽培※2のいずれかに取り組むこと ※1 耕耘砕土後に入水し、しばらく放置した後、代掻きを行わずに苗を移植する ※2 葉齢が2葉未満の苗(乳苗。育苗日数は7～10日程度)を移植する	・実績報告書(個票)の提出 ・作業中の写真及び資材購入伝票の写しの提出	(無代掻き移植栽培の場合) <input type="checkbox"/> 代掻きしていないほ場への移植作業がわかる写真  (乳苗移植栽培の場合) <input type="checkbox"/> 乳苗を確認できる写真
⑦	作期分散	作期の異なる複数品種を作付けし、作期を分散する取組 ・農業経営体の水稲生産全体の中で、上記の取組を行うこと	・営農計画書により確認	
⑧	土壌診断等を踏まえた施肥・土づくり	土壌診断等に基づく施肥、有機質資材や土壌改良資材の施用 ・pH、窒素、リン、カリについて分析を行う土壌診断又は葉緑素計を用いた葉色診断の結果に基づいて、肥料や有機質資材、土壌改良資材を施用すること	・実績報告書(個票)の提出 ・診断結果及び資材購入伝票の写しの提出	
⑨	効率的な施肥	流し込み施肥※1、育苗箱全量施肥※2、側条施肥※3のいずれかに取り組むこと ※1 水口に流し込み施肥用装置を設置し肥料を灌漑水とともに流し込む ※2 苗箱内に層状に施肥する機械又は肥料と床土を均等に混合する機械を使用し、苗箱内に1作期分の肥効調節型肥料を施用する ※3 側条施肥に対応した田植機を使用し、移植と同時に株溝の土中にすじ状に肥効調節型肥料を施用する	・実績報告書(個票)の提出 ・「流し込み施肥」は資材購入伝票の写しの提出 ・「育苗箱全量施肥」、「側条施肥」は、資材購入伝票の写し及び作業中の写真の提出	(育苗箱全量施肥の場合) <input type="checkbox"/> 作業中の写真 または <input type="checkbox"/> 使用した機械の写真  (側条施肥の場合) <input type="checkbox"/> 作業中の写真 または <input type="checkbox"/> 側条施肥機と田植え機を含めた写真
⑩	効率的な農薬処理	播種時同時処理※1、田植え同時処理※2のいずれかに取り組むこと ※1 専用の機械を使用し、播種と同時に農薬を処理する ※2 専用の機械を使用し、移植作業と同時に農薬を処理する	・実績報告書(個票)の提出 ・作業中(専用機械)の写真および資材購入伝票の写しの提出	<input type="checkbox"/> 作業中の写真 または <input type="checkbox"/> 使用した機械の写真
⑪	化学肥料の使用量削減	堆肥利用等により、化学肥料の使用量を地域の慣行レベルと比べて30%以上削減すること	・作業日記により確認	
⑫	化学農薬の使用量削減	総合的な防除体系の確立等により、化学農薬の使用量を地域の慣行レベルと比べて50%以上削減すること	・作業日記により確認	
⑬	多収品種、高温耐性品種又は米粉用米パン・麺専用品種の導入	以下のいずれかの品種の作付け ①多収品種(新市場開拓用米、加工用米、米粉用米) ②高温耐性品種(全品目) ③米粉用米パン・麺専用品種(米粉用米)	・営農計画書により確認	
⑭	農業機械の共同利用	農業経営体間で農業機械※の共同利用を行うこと又は農業機械のシェアリングサービスを活用すること ※取得価格50万円以上が対象	・実績報告書(個票)の提出 ・作業中の写真の提出	<input type="checkbox"/> 使用機械の写真 または <input type="checkbox"/> 作業中の写真
⑮	スマート農業機器の活用	ドローンや水管理システム等の活用 ・ロボット、AI、IoTなどの先端技術を活用したスマート農業機器・システムを使用すること	・実績報告書(個票)の提出 ・作業中(専用機械)の写真	<input type="checkbox"/> 使用機械の写真 または <input type="checkbox"/> 作業中の写真
⑯	ほ場由来の温室効果ガスの削減	ほ場由来のメタン発生量の削減に向けた取組の実施 ・長期中干し(地域の慣行日数10日に対して7日間以上延長)、秋耕(令和8年度中に実施)、のいずれかに取り組むこと	(長期中干しの場合) ・作業日記により確認 (秋耕の場合) ・作業中の写真の提出	(秋耕の場合) <input type="checkbox"/> 作業中の写真
⑰	ほ場への炭素貯留	土壌管理によりほ場への炭素貯留に向けた取組を実施 ・バイオ炭の施用、不耕起又は省耕起栽培、のいずれかに取り組むこと	・実績報告書(個票)の提出 ・作業中の写真の提出	<input type="checkbox"/> バイオ炭の施用、不耕起又は省耕起栽培が分かる写真
⑱	ケイ酸質肥料散布(地域特認①)	生産性向上の取組(①ケイ酸質肥料②その他溶性リン肥等①の成分を含む肥料のいずれかを適正量散布)を行うこと	・作業日記により確認 ・資材購入伝票の写しの提出	
⑲	省力的な農薬散布(地域特認②)	投げ込み式又は流し込み式の薬剤(フロアブル剤、バック剤、豆粒剤等)を使用して水田除草剤や殺虫剤の散布を行うこと		

写真必要

写真必要

写真必要